

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名> 経腔超音波検査による子宮頸部、羊膜の評価に関する検討
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 産婦人科（研究責任者）小松 篤史
<研究期間> 承認日 ～ 西暦 2023年 3月 31日
<研究の目的と意義> 切迫早産ではこれまで超音波で子宮頸管長を測定し、おなかの張りをみて診断してきました。 診断後には内服や入院での治療を行います。早くに入院するとその入院期間は長期にわたり患者さんやそのご家族にとっては大変な負担となります。 この研究を通して、切迫早産の予知ができれば、早期治療が可能となりその結果長期入院を防ぐことや早産率の低下ができるかもしれません。
<利用する試料・情報の項目> 妊婦健診の際に行う経腔超音波検査で子宮頸部の画像を保存します。
<対象となる患者さん> 当研究の承認日より2023年3月31日までに当院で妊婦健診される方を対象とさせていただきます。
<研究の方法> 妊婦健診の際に行う経腔超音波で子宮頸管の画像を保存します。患者さんにお帰り頂いたあとにオフラインで画像の解析をし、そのデータをもとに子宮頸部の変化について考えていきます。 研究のために追加で検査や手術を行うわけではありませんので、研究参加によって検査の回数が増えたり内容が変わったりすることはありません。 さらに電子カルテから得られる検査結果や病状の経過などの情報と組み合わせることで、超音波画像が示すデータにどのような影響を与えているかを考えていきます。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町30-1) 産婦人科 氏名:小松 篤史 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2520 (PHS)8538